

沼津市総合計画審議会 第1回産業・観光部会 会議の概要

日時：令和元年10月15日(火) 10:00～12:00

場所：沼津市民文化センター 第1練習室

資料：次第、資料1～2、基本構想(案)

1 開会

2 部会長あいさつ

3 部会の進め方等について

部会の役割や審議日程等について、事務局より説明(資料1、2)。

4 沼津市総合計画基本構想(案)について

事務局より、第2～4章の振り返りの後、第5章まちづくりの柱3力強い産業を牽引するまちについて説明。

●資料や説明に対する委員からの意見は以下のとおり。

①商業の振興

- ・ 個店も大事だが、商店街は存続の危機にあり、日常生活と密接な存在となるなど、あり方についてどう考えていくかが重要である。
- ・ 歩くゾーンと車のゾーンとを明確に区別し、歩いて楽しむ、食べて自然に触れて帰るなどのライフスタイルとしての商店街のイメージづくりが大切である。
- ・ 商店街は、高校生や主婦などが気軽に行ける場となってほしい。公共空間として駅前広場や商店街を考える必要がある。
- ・ 鉄道高架事業が進むことで、駅周辺が活性化することに期待している。
- ・ 足に合った靴を紹介できるなど、歴史ある個店の技術力や親切・丁寧な部分を発信していくことも重要である。
- ・ 中心市街地に高齢者が増えるなら、顧客に合わせて商店街のターゲットを修正しなければならない。住居になるのではなく、世代交代して継続していくには市の主導も必要である。
- ・ 仲見世商店街などは、オフィス街の食堂としての可能性がある。
- ・ 商店街は、顧客層の変化に伴い新しい価値や機能が求められており、位置づけを変更する必要がある。
- ・ 商業は、単独ではなく、文化や観光との連携や、回遊性・ライフスタイル等を考慮して活性化を図ることが重要である。

②工業の振興

- ・ 地元企業の育成が大事であるが、外からの刺激として企業誘致も必要である。そして、地元の中小企業と大企業をつなぐコミュニティの構築が重要である。
- ・ 市内企業の技術力や開発力・販売力をどう活かせるか、どの分野に力を入れるか、工業の

方向性を示す必要がある（ファルマバレー、航空産業、自動運転バスなど）。

- ・インターチェンジ周辺を工業用地として有効活用してほしい。
- ・工業は、早いスピードで変革が求められる分野と感じる。技術力を活かして新たな展開を図る第2創業の視点が重要であり、文章に加えてほしい。
- ・理系分野の子どもを育成するまちがないので、基本の方向で示せるとよいのでは。
- ・モノを作っても売れないことが多いので、中小企業の出口戦略的な部分が記載できるとよい。

③農林水産業の振興

- ・農林水産業は、今あるものの維持が施策として重要。アニメ等との連携やロケ誘致での物産情報発信などにより、付加価値を付けることが大事である。
- ・高校生地産地消メニューコンテストや小中学校への説明など、子どもたちに対する教育と連携した取組は、重要である。地産地消は、観光商品としても外から人を呼び込める。
- ・販売ルートを確立し、商売として成立させることが難しいので支援が必要。
- ・ITとの連携に関しては、センサーによる温度や湿度等のデータ管理などが挙げられるが、異業種と出会いコラボする機会の創出が課題と考える。
- ・地域商社の考え方を取り入れたい。生産者だけでは出口（販路）戦略を描くことが困難であり、プロフェッショナル集団の構築が必要となる。地域のチームワークなど総合力で物産品を販売していくという力強さを出したい。
- ・全て沼津の事業者で行うだけでなく、広域連携も大事である。相談体制もあると心強い。

④新たな産業の創出

- ・起業後のセカンドステップにおける支援や異業種をつなぐコミュニティが大事である。
- ・異業種連携を進めるにあたり、市が場を提供するなどの火付け役が求められる。
- ・この地域の持つネジ等の技術力を総合的に活かすため、専門家の助言を得て産業の方向性を意識的に行政が示唆しないと、動きが出ない。沼津らしさを出すべきではないか。
- ・工業振興の色が強い文章だが、全産業に通じるものであり、タチバナの医薬品としての活用など沼津らしい新たな観点での産業を加えることが重要である。

⑤その他全般（労働人材の確保と育成）

- ・子供たちが将来生き生きと働けるまちを目指すため、教育や子育てにおいて、商店街や外部人材との交流など産業の場を活用することが効果的であり、ひいては力強い産業のまちにつながると思う。
- ・全ての産業の連携や融合について、リード文で述べてほしい。

5 その他

次回会議日程の確認

6 閉会